

夢のかけ橋

子供たちを明るい将来へと導くために ~学校・保護者・地域が手を取り合って~

1月号

平成31年1月31日

六ツ美西部小学校長

小田 英宣

子供の可能性を咲かせるために

人によって好きな花は違うものだろう。ちなみに日本人が選ぶ好きな花ランキングの1位は、「桜」だそう。私は、「紫陽花」も好きである。本校北側のフェンスの外にも、紫陽花が植えられている。見頃となる季節には、足を運んでいただき、多くの方に見ていただきたい。

今、本校の紫陽花は、枯れ木のような状態である。枝の先端も切られ、再び花が咲くようには見えない。見頃が終わった後、本校の校務員さんが、剪定をしてくれたため、枝の先がないのだ。この剪定が大切だという。株の風通しをよくすることで、次の年に花を咲かせるためのエネルギーを蓄えられる。剪定をしなくても花は咲くようだが、紫陽花の美しさを引き出すためには欠かせない作業だという。

大人は、ついつい子供たちに期待をしてしまう。子供への願いが大きければ大きいほど、期待も膨らむ。子供はうまくいかないことを、多く経験しながら成長していくもの。大人の期待が強すぎると、失敗を隠し、時には嘘をついてしまうことさえある。子供たちが、きれいな花を咲かせるために、大人の期待を剪定することも必要なのだろう。



皆が咲きますように

6年生の卒業が近づいてきた。6年生の各教室には、「卒業式まであと〇〇日カレンダー」が掲示されている。1日1日、数字が減っていくカレンダーを見ると、寂しい気持ちになるものである。卒業まで1か月半ほどとなった今、子供たちが帰った後の職員室では、6年生の先生たちが、卒業アルバムの編集を行っている。1年生からの歩みが分かる数多くの写真が、このアルバムには載る。子供のよい姿が写っている写真を選び出すだけでも大変である。さらに、だれが何枚写真に写っているかまで、調べている。6年間で、目覚ましい成長を遂げているため、低学年の頃の写真を見ても、どの子なのか判別できず、虫眼鏡で拡大して確認するなどしている。膨大な時間をかけ、全ての子にとって、大切なアルバムに仕上げようとしている。授業の中でも、同じ子ばかりを指名せず、少しでも多くの子供が発言できるようにと、どの教師も心がけている。学校は、このように、全ての子供にチャンスを与えることができる場でありたいと考えている。

男女の平等を問うある調査で、日本は世界の中で、80位という結果であったという。男女の平等だけでなく、国民全体の不平等さを感じる人もいることだろう。このような社会に踏み出していく前に、子供たちには、平等であることやチャンスが皆にあることの尊さを感じ取らせたい。子供たちには、一輪だけ咲く花ではなく、辺り一面に咲く花景色をよしとする心をもち備えた大人へと成長してほしい。

